

令和6年4月
一橋大学

令和6年度一橋大学一般選抜（前期日程）第2次試験

出題の意図等 【国語】

問題一

現代文の読解力を試す問題である。「書簡体小説」を読むことで自分とは異なる集団に属する人間への共感が可能になり、その共感が土台となって、人権思想がひとつの人間集団だけではなく他の人間集団にも適用されていくことが考察された文章である。

問い一 文脈を理解した上で語を的確に選択し、かつ漢字を正確に書く能力をみる。解答例はA「醸成」、B「埋没」、C「屈辱」、D「尋問」、E「名誉」。

問い二 傍線付近の内容をふまえ、指定された字数で適切にまとめられるかを問う。

問い三 文章の内容を理解できているかを問う。傍線の前の二段落で、「書簡体小説」を読むことの効用が説明されている点に留意しつつ、指定された字数で適切にまとめる。

問い四 文章の内容を理解できているかを問う。人権思想の持つ、ある人間に適用するとそれ以外の人間にも適用しなければならなくなるという特質に留意しつつ、指定された字数で適切にまとめる。

問題二

いわゆる近代文語文は、近代の日本社会に深く関係しており、当時の知識人が新しい課題にどのように取り組んだかを知る上で重要である。そうした文章の読解力を試す問題である。文章では、外国（西洋）の文章を翻訳するに当たっての、翻訳者のあるべきすがたが主張されている。翻訳者は意味が同様であるからと言って、その言葉を伝統的な表現に置き換えるのではなく、異文化を尊重し、その精神をも再現すべく努めなければならないことが主張されている。

問い一 語句や文法が理解できているかを問う。解答例は「その弊害はさまざまであって一々挙げることはできないが、ひとまずその甚だしい例を一、二示すと」などである。

問い二 文章の内容を理解できているかを問う。「典語経語」は原文を書いた西洋人が思考するはずのない表現とされていることに留意しつつ、規定の字数で適切にまとめる。

問い三 文章の内容を理解できているかを問う。「小心者」が同じ段落にある「大胆者」と対比的な人物であることに留意しつつ、規定の字数で適切にまとめる。

問題三

文章全体の論理を正確に読み取る読解力と、それを二〇〇字で要約する文章表現力とを問うことを意図している。素材となる文章は、被害者が加害者を赦すという行為について、その機能と類型の考察をふまえて、個人の誠実さと良心に起源を持つ行為であることを強調する。それゆえ、赦しは強制されてはならず、困難であるがゆえに道徳的に賞賛に値することが述べられる。この文章の内容を二〇〇字の解答制限のなかで要約するには、ただ単に論点を列挙するだけでは不十分であり、それらを元の文章の論理構造に沿って再構成したうえで、新たな文章として表現する必要がある。